

中長期目標 (学校ビジョン)	価値観が多様化する時代を生き抜く力と豊かな人間性を育成する。 ・多様な生徒に応じた教育課程・クラス編成等により、学力の向上と進路目標を実現する。 ・切磋琢磨し、自己の多様な能力・適性を発見して才能の開花を図る。 ・地域に信頼され、地域の期待に応え、地域を支える学校づくりをすすめる。	今年度の 重点目標	「BIG」に育て境高生 1 部活動による人間力の伸長 【B】 2 生きる力（探究力）の育成 【I】 3 学力の向上と進路実現 【G】 4 学校業務改善の取組を進め、学習指導をはじめとする生徒に対する指導の充実を図る。
-------------------	--	--------------	--

年 度 当 初					評 価 結 果		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 部活動による 人間力の伸長	○「部活動に入ってしっかり頑張った」と回答する生徒の割合が8割を超えること。 ○全国大会出場者が80名、入賞者が5名を超えること。 ○中国大会出場者が200名を超えること。	○1月生徒アンケート結果「部活動に入ってしっかり頑張った」で「あてはまる」と回答する生徒が70.6%（「だいたいあてはまる」を合わせると87.1%） ○部活動加入率は85％を超え、生徒は積極的に活動に取り組んだ。 ○全国大会出場者60名（入賞者0名）、中国大会出場者数137名（近畿大会含む）	○文武両道の活力があり地域の誇りとなる普通科高校として存在 ○県トップレベルの実績を持つ部活動を維持育成し、学校内外に活力ある境高を発信	○学年ごとの目標学習時間（1年2時間以上、2年3時間以上、3年4時間以上）をもっと周知、呼びかけする。 ○学習と部活動の両立について、顧問から積極的に指導をする。			
	○ボランティア活動や地域の活動に参加する生徒の数が200名を超えること。	○ボランティア参加者は延べ169名。 ○計5回のスクールプロジェクトを通じて地域の小学生と学習やスポーツ・芸術の交流を行うことができた。	○地域のボランティア活動への積極的な参加 ○部活動において地域の人材の力を借りたり、生徒が小中学生に学習やスポーツを指導したりすることで地域の信頼を獲得	○ボランティア募集情報を生徒に伝え、積極的な参加につなげる。 ○生徒向けボランティア講座を開催する。			
2 生きる力（探究力）の育成	○「自分や他人を大切にすることができた」と回答する生徒の割合が9割を超えること。 ○「生徒は自分や他人を大切にすることができるようになった」と回答する教員の割合が9割を超えること。	○アンケート「自分や他人を大切にできる」の回答「あてはまる」71.8%「だいたいあてはまる」26.7% ○QUを用いて生徒の抱える問題の早期発見に努め、学級の実態を把握した。日頃の相談活動から得た内容や気になる生徒の情報を教職員間で共有している。また、学期1回の生徒情報交換会を行うことで組織的な対応に繋げて問題解決にあたった。 ○1年次生対象の自己理解他者理解の講演会を12月に実施した。 ○命の教育講演会を1、2年次生対象に1月に実施した。	○生徒一人ひとりの状況を全教職員が把握できているという人権尊重意識の高い職場 ○人権教育全体計画に基づいた規範意識・人権意識の高揚	○多くの生徒が自分や他を大切にできるという問いにポジティブな回答であるが、クラスや部活動内など個別の対応をきめ細かく行う必要がある。 ○分掌間の連携により生徒情報を共有し、問題事案に対して組織的に対応する。 ○今後も生徒の行動、発言、様子を見守り、状況に応じた適切な指導を行う。			
	○「挨拶・服装等けじめのある学校生活ができた」と回答する生徒の割合が8割を超えること。 ○ゴミの分別・減量化について、平成25年度との比較で継続して減量を実現すること。	○「挨拶・服装等けじめのある学校生活ができた」は「あてはまる」72.1%「だいたいあてはまる」26.7%。 ○「校内外の清掃に勤しみ、ごみの分別等もしっかりできた」の回答「あてはまる」51.8%「だいたいあてはまる」38.2% ○環境委員を通じて、ゴミの分別の徹底・減量化などの活動を継続して行っている。 ○挨拶の習慣が定着している生徒が多い。 ○服装・頭髮の規則に関しては概ね守れているが、スカート丈の短い女子生徒やネクタイ未着用が目立った。 ○SNSのトラブルはほとんどなかったが、校内でのスマートフォン使用違反が25件あった。	○挨拶の励行、服装・清掃指導等の徹底 ○生徒が主体となって取り組む学校環境の整備	○生徒会執行部や部活動が中心となり、活発な挨拶ができるよう働きかける。 ○挨拶の励行、服装、清掃活動は、細かいところに目を配り、継続して指導する。 ○スマートフォンの使用については校内での使用ルールを徹底する。			
3 学力の向上と 進路実現	○「進路目標を定め、その実現に向けて家庭学習を進めた」と回答する生徒の割合が5割を超えること。 ○国公立大学現役進学者数が30名を超えること。	○「進路目標を定め、その実現に向けて学習を進めることができた」の回答。「あてはまる」37%「だいたいあてはまる」42.7%。 ○「探究学習等に主体的に取り組むことができた」「あてはまる」49.4%「だいたいあてはまる」41.5% ○国公立現役進学者数は24人。 ○1年次生は、地元でのSDGsの取り組みを学ぶ機会を作り、グループ活動を通して自分たちのSDGs目標達成に向けての取り組みを主体的に活動した。2年次生は、地域の方々と一緒に活動をする機会を持ち、グループで主体的に考えた地域をよりよくする提案を実行・評価し、発表した。	○生徒が3年間をとおして進路目標を持ち、その実現に向けて努力する姿の確立 ○キャリア教育全体計画に基づいた明確な進路目標を設定 ○「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を養うため、境考学を充実・発展	○安易に進路決定するのではなく、より高い目標を掲げて努力するよう指導する。 ○「境考学」などで主体的に活動したことを進路実現の一助にできるよう指導する。			
	○「授業の内容に興味がわき、理解が深まった」と回答する生徒の割合が8割を超えること。 ○タブレット端末等のICTを活用した生徒主体の授業を8割以上の教員が実践すること。	○「授業に前向きに取り組む、理解を深めることができた」の回答。「あてはまる」46.8%「だいたいあてはまる」47.3% ○1人1台端末の公開授業を行ったが参加教員は少なかった。 ○探究掲示板の作成により、生徒に地域の活動を知らせ、自ら活動するきっかけ作りを与えることができた。	○1人1台端末を用いた授業研究会並びに授業参観週間での各教科代表による公開授業の定着	○授業を中心とした学習指導を継続していく。自学の習慣を身につけさせ、家庭学習を定着させる。また、テスト前にも集中して取り組むよう指導を続ける。自習室の開放を行う。 ○境考学では生徒に対する一層の教職員からの声かけや指導を行っていく。			
4 学校業務改善 の取組	○行事や委員会等を抜本的に見直す。 ○長時間勤務者の解消	○月における時間外業務80時間超勤務者は0名であったが、45時間超80時間以下勤務者は延べ21名であった。 ○運営委員会の回数は減ったが、業務削減はまだ不十分である。 ○3年次生の面接指導・小論指導は全教員で分担して取り組めたが、指導期間中に他の複数の行事と重なり、教員の負担は非常に大きかった。	○時間外業務の上限が、月45時間、年360時間を超えないよう遵守 ○休養日、活動時間を設定した活動方針の全部活動への徹底	○早めに管理職から面談等を実施し、時間外勤務時間の削減を図る。 ○運営委員会等の設定時間、開催回数の見直しが必要。 ○人権LHRと境考学等で担任の負担が大きいので割り振りや根本など見直しが必要。			